令和７年度　日本大学危機管理学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： 危機管理学部　危機管理学科
資格： 教授
氏名： 瀧川　修吾

研究課題名	（１）幕末から明治初年における征韓論・アジア雄飛論の研究，（２）現代行政の諸相（日本の国際化と外国人政策に関する研究，権利擁護を支える制度）（３）高大連携を視座に据えたアフターコロナの社会科学教育の研究等【その２】
研究目的及び研究概要	今年度も引き続き，平和研究のための政治史・思想史研究として（１）幕末から明治初年における征韓論・アジア雄飛論の研究に取り組んだ。また，現代政治や行政に関する知見も深めるべく，これまで取り組んできた（２）日本の外国人受け入れ政策や権利擁護につき、引き続き研究を深めた。さらに，（３）アフターコロナに相応しい社会科学教育のありかたについて高大連携・接続を視野に入れた研究を，鋭意進めた。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	具体的な研究成果としては、（２）に関連する研究業績として、共著ながら福田幸夫・森長秀編(福田幸夫･森長秀･菅野昌史・衣笠葉子･篠木潔・瀧川修吾・田原豊治・永田啓造･福山良弘･布施憲子・山口千恵・吉田龍太郎)『新・社会福祉士シリーズ18 権利擁護を支える法制度［第２版］』、弘文堂、２０２６年（「用語集」pp.230-248を吉田龍太郎と共に担当）を刊行した。（３）に関する研究業績として、日本臨床政治学会2025年度第２回現代政治研究部会（於日本大学通信教育部１号館）において、「Ryutaro Yoshida, From Rearmament to ‘Post-War’ Values を読む（書評会）」「教育政治学の素材としての芦田均」というタイトルで、2026年3月28日に学会報告を行った。 なお（１）については、研究業績は残せなかったが、私費で山口県萩へ史料を渉猟に行き、講義資料として活用するなどしている。